

静原小 学校通信

10号

平成27年12月22日
京都市立静原小学校
校長 林 久徳

静原小学校とキャリア教育

校長 林 久徳

「静原小学校のいいところはどんなところ?」「人数の少ないところ」「なんで?」「わたし、おおぜいの中は苦手やねん」「でも、誰にでも声をかけて仲良くなれてるやん」「うん。友達が多い方なんや」「へー。そんな力も静原小学校で身に付けたんかなあ?」「たぶん」「じゃあ、いやなところは?」「寒いところ」「そうか。じゃあいいところ第2位は?」「みんな仲がいいところ」「そうやなあ、1年から6年までほんまに仲いいもんなあ。じゃあいやなところ第2位は?」「バスの本数が少ないところ」「そうか。じゃあ好きなところ第3位は?」「給食!」「給食おいしいもん。いやなところ第3位は?」「うーん、わからん」

静原上ノ町のバス停から、学校までの集団登校。その道すがらのわたしとある子との歩きながらのコマ。

本校は昨年度よりキャリア教育に取り組んでいます。キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されています。キャリア教育というこの定義の「社会的・職業的」という言葉に目を奪われがちですが、わたしがこの定義の中で最も大切だと思う言葉は「一人一人の」というところです。わたしたち人間は大人も子どももそれぞれの背景を持ち、それぞれの人生を歩んでいます。1つの教室で同じように勉強していても、また、集団登校していても一人一人学び方が違い、一人一人歩き方が違い、日々歩んでいるのです。まして、人の人生は一人一人違い、その進路も、その進路を切りひらく手だても一人一人違って当たり前です。一人一人のことを知り、一人一人に寄り添い、一人一人に応じた手立てを考え、一人一人に対応していく。これは小さな学校だから特別にやれることではなく、どんなに大きな学校、大人数の学級でも最も大切なことです。進路指導を全体でオリエンテーションすることはあっても、進路をまとめて決めることはないでしょう。一人一人を理解し、大切にするとところから自立の基盤となる能力や態度を育てることができるのです。一人一人のことをまず知り、その子に応じた手立てを計画し、実行し、その成果や成長を見取り、本人に返し、自己を見つめ意識化させ、自信を持って次の一步を踏み出させる。本校ではそのような営みを「個の見取りを核としたキャリア形成サイクル」と呼んでいます。

12月も残りあとわずか。冬休みになると普段よりも長く子どもさんと一緒に過ごされることが多くなると思います。そうなるといつも以上に、わが子をこうしたい、こうさせたいという思いが強くなる時があるかもしれません。そんなときにこそ、少し口数や手数を減らし、子どもさんの様子を見守り、気持ちに寄り添い、行動の変化や成長を見つけてあげてください。それが自信になり、自立に向けて歩み出すきっかけになります。子ども一人一人が自信を持って歩み始めること。これこそが子ども一人一人の社会的、職業的自立につながっていきます。そんな子ども姿を期待しつつ平成27年を締めくくりたいと思います。



人権集会

自由参観日の午後、障がい者スポーツセンターよりお越しいただき、障害者スポーツを通して、みんなが、楽しく生活していくことについて考えました。

卓球バレーは、歩けない人も手を自由に使いにくいけれど足なら自在に動く人も物が見えない人も音で聴き分けてできるスポーツです。準備や後始末の仕方から始まり、ゲームをしながら、いろいろなルールを理解しながらやり方を覚えていきました。最後のほうでは、ルールが分かり、楽しく活動することができました。

障害のあるなしや程度の差の違いはあっても一緒に楽しむことができるなあという感想も児童から出てきていました。

障がいがあるからと言って、何もしないで生活しているより、動ける範囲で精一杯スポーツを楽しむことで、寿命も延び、精神的にも健康に過ごしていけることも教えていただきました。私たちも生涯にわたってスポーツを楽しむことは良いことであると言われていることと同じです。

マラソン大会



早朝は、冷えこみがきつく、寒い日でしたが、マラソンスタートの頃は、日差しもあり、走っている児童は、周回を重ねていくごとに、上着を脱いでいきました。応援の方も気持ちの良い晴天のもと声援を送っていただいたことと思います。児童の走れる距離も伸びました。

天気も良く、初めから、スピードを上げていく姿が多くありました。だんだん、スピードが落ちていきますが、ある一定のスピードを保って走れる児童もたくさんいました。事前のマラソン練習タイムは、10分間ではありますが、

走りとおすことの積み重ねで、走れる体力の向上につながったものと考えられます。下見で、現地を1周走ってコースを確かめることも良い結果につながったものと考えられます。

しめ縄づくり

今年も、地域の方々にお世話になり、しめ縄づくりをしました。事前にわら掃除をして、作業しやすいように個々に準備しました。十分に準備をしていると、しめ縄を作るという



意識も高まり、主体的に、目的意識を持ち、取り組む姿がたくさん見られました。地域の方々に教えていただくだけでなく、「今年は、自分だけの力で2つ作れた」とか、「来年は、自分だけの力でやり遂げるようにしたい」という感想の発表もありました。しっかり教えていただき、手元を見るとか、自分でもやってみるというように取り組みました。

